記　入　日　2012 年　1 月 17 日

1．概　要

実践団体名	南三陸町立歌津中学校		
連絡先	歌津中 0226-36-2019，担当 佐藤 090-3366-0899		
プランタイトル	地域を愛し，南三陸の防災を担う歌中生 ～「結いっこ」の精神を生かして～		
プランの対象者※1	中学生，教職員・保育士等，保護者・ＰＴＡ，地域住民	**対象とする災害種別**※2	津波，地震，災害全般

※1　別紙「記入上の留意点」の1．項目から選択し、記入してください。（複数選択可）
※2　別紙「記入上の留意点」の2．項目から1つ選択し、記入してください。

【プランの目的・ここがポイント！】

ふるさとの防災を担うべく，「津波（災害）に強いまちづくり」を目指して，中学生が様々な訓練や体験などの学習活動を行い，地域の防災力向上に貢献することがプランの目的である。しかし，津災（津波による災害）を受けたことによって，生徒の心のケアや津災時の本校の教育活動の記録を残すこと，さらには中学生が出来る地域貢献などの活動も行っていく。

【プランの概要】

- **歌中夏祭り**‥‥‥生徒たちが企画して，犠牲者の鎮魂と被災地域住民を励ますお祭りを実施した。
- **少年防災クラブの活動**‥‥‥ 全校生徒が加入する少年防災クラブを発足させ，自らの命を守る避難訓練，仮設住宅の防火訪問や火災予防ポスターの制作などの活動を行った。
- **総合的な学習の時間の授業**‥‥‥ 津波襲来時の避難について考えさせる授業を行ったり，未来の歌津の姿や，復興について考えさせる授業を行った。
- **生徒の心のケアの実施**‥‥‥ 生徒の心のケアを行う職員体制を整え，ケアを実施した。
- **津災の記録文集の制作**‥‥‥ 津災があった年の歌津中学校の記録を残していく。
- **生徒の学習と生活の支援**‥‥‥生徒の学習支援や生徒を含む家族の生活支援を行う教職員体制を整え，支援を行った。
- **教職員の研修**‥‥‥ 救急救命法の講習会や，講演会などの研修会を実施した。

【期待される効果・ここがおすすめ！】

津災を受けて，生徒，保護者をはじめ，この地域に住む人は誰であっても，防災教育の重要性を強く感じている。今こそが，地域の防災力を向上させる絶好の機会である。この機を逃さずに，様々な仕組みを作って，このまちを津波に強い，災害に強いまちにして行かなければならない。この地域の子どもたちが必ず入学する歌津中学校に，卒業するまでに生徒全員が防災について学ぶ仕組みをつくり，学校が地域防災における人材育成の拠点的な役割を担い，学校と地域社会の橋渡しを行っていきたいと考えている。そのような仕組みをつくり，後世に残すことがこのプランの根幹であり，チャレンジである。

２．プランの年間活動記録（2011 年）

	プランの立案と調整	準備活動	実践活動
4 月	災害時の学校運営について検討及び計画の策定	学校再開準備（物資の支援要請等）	津災記録の開始（作文，記録写真等の収集）
5 月		歌中夏祭りの準備開始	学校再開（５月１０日） 生徒の心のケア，生活支援，学習支援の開始
6 月			（地区中総体）
7 月		総合的な学習の時間「歌津の未来を考えよう」の講師選定等の準備	（地区陸上大会） 総合的な学習の時間「津波から身を守ろう」（1 時間実施） 歌中夏祭り（７月３０日）
8 月			（夏季休業） 教職員全体研修会（救急救命法講習）
9 月		少年防災クラブ発足準備開始	（運動会） 総合的な学習の時間「歌津の未来を考えよう」（10 時間実施）
10 月		少年防災クラブ模範演技希望生徒決定及び練習開始	仮設住宅訪問（文化祭への招待） 少年防災クラブの啓発活動 （文化祭）
11 月		少年消防クラブ模範演技練習	少年防災クラブの発足
12 月			教職員全体研修会（講演会 岩手県大槌町教育委員会教育長） 仮設住宅等の防火訪問実施 西光寺での火災予防イベント実施
1 月		火災予防ポスターコンクール	火災予防ポスターコンクール 防火ポスター配布及び防火訪問 津災記録文集の編集・製本
2 月		少年防災クラブ模範演技希望生徒決定及び練習開始	津災記録文集の編集・製本
3 月			仮設住宅等の防火訪問実施 津災記録文集の編集・製本

３．実践したプランの内容と成果
【実践プログラム番号：　１　】※3

タイトル	歌中夏祭り（総合的な学習の時間の活用）
実施月日（曜日）	７月３０日（土）
実施場所	南三陸町立歌津中学校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏　　名：行場 広 所属・役職等：地域貢献部 部長
所要時間または「コマ数×単位時間」	準備期間：５月末から約２ヶ月間，放課後等を使って準備 実施当日：１２：３０～２０：３０まで８時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	１ イベント・行事
活動目的※5	１０ その他（犠牲者の鎮魂，被災住民の復興支援）
達成目標	犠牲者を悼む。また，中学生の頑張りを地域の方々に見せ，元気になっていただく。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	毎年行われていた地域の祭りが中止されることを聞きつけた生徒たちが，自分たちが犠牲者を追悼する盆踊りを行おうとして実施したもの。全国に盆踊り用の浴衣の提供をお願いしたり，総合的な学習の時間を使って盆踊りやソーラン節の踊りを練習し，見に来てくれる方に感動を与えようと頑張った。その他，生徒たちは演し物を企画したりもした。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	生徒１４１名分の浴衣を準備した。全国から着なくなった浴衣を提供してもらったり，打ち上げ花火を花火師の資格のある保護者から提供してもらったりした。 チームカイト，歌中応援団，ビジョン東日本サポートネットワークなど様々なボランティア団体から，炊出しや手品やバンドなどの演し物の提供をしていただいた。
参加人数	歌津中学校生徒１４１名，保護者，地域住民，ボランティア多数
経費の総額･内訳概要	23,413 円（フット用セロハン，インク，写真プリント用紙）
成果と課題	【成果】 犠牲者を悼むという目的を生徒はよく理解し，熱心に取り組み，感動を与え，自らも感動を味わった。 【課題】 来年度以降の開催について，検討が必要である。
成果物	「津災の記録」に感想等を掲載

※3　本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。
※4　別紙「記入上の留意点」の3．項目から選択し、記入してください。（複数選択可）
※5　別紙「記入上の留意点」の4．項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：　２　】※3

タイトル	歌津中少年防災クラブの活動
実施月日（曜日）	発足式は 11 月 30 日（水）活動は随時
実施場所	主に歌津中学校，その他（仮設住宅，福幸商店街，西光寺など）
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏　　名：佐藤 公治 所属・役職等：研究主任（少年防災クラブ担当）
所要時間または「コマ数×単位時間」	模範演技の練習等１２時間，発足式等２時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	８ その他学校内での時間　　１３ 体験学習 １６ 避難・防災訓練）
活動目的※5	３ 災害に強い地域をつくる　　４ 災害を想定した訓練 ６ 防災に関する知識を深める　　７ 技術を身につける ８ 防災意識を高める　　９ 災害時の対応能力の育成
達成目標	災害に強いまちづくりに貢献する生徒を育てる。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	生徒は，入学してから卒業するまで継続的に活動を行う。避難訓練，救急救命法，応急処置法，炊出し訓練，応急トイレの制作，ポンプ操法の訓練などを繰り返し行う。これらの訓練等には資格制度を設け，生徒の意欲を高める。実施に当たっては，消防署，町役場，ＰＴＡなどからなる防災教育関係者会議をつくり，学校だけでなく地域ぐるみで防災教育を行っていく。そのような仕組みを作る。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・ 南三陸消防署歌津出張所の皆さん ・ 南三陸町危機管理課の皆さん ・ 歌津中学校教職員 ・ 軽可搬Ｄ級ポンプ ・ 少年消防クラブの制服４０着（ヘルメット５個を含む）
参加人数	歌津中学校生徒１４１名
経費の総額･内訳概要	35,620 円（ヘルメット５個，少年消防クラブバッジ）
成果と課題	【成果】 少年防災クラブを発足させ，災害に強い地域づくりの基盤を整備することが出来た。 【課題】 「防災教育協力者会議（仮称）」を発足させ，歌津中の防災教育に実際に協力してもらうこと。
成果物	「津災の記録」に感想等を掲載

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。
※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）
※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：　３　】※3

タイトル	未来の歌津を考えよう（総合的な学習の時間の活用）
実施月日（曜日）	9 月 9 日(金)，16 日(金)，22 日(木)，10 月 6 日(木)，7 日(金)，10 月 21 日(金)
実施場所	歌津中学校　多目的室，体育館，各普通教室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏　　名：佐藤 公治 所属・役職等：研究主任
所要時間または「コマ数×単位時間」	総計１０時間扱い，うち講演会４時間（講師４名）
プログラムのカテゴリ、形式※4	３ 講演会・シンポジウム　　４ 総合的な学習の時間
活動目的※5	１０ その他（復興に向けた意識啓発，主体的なまちづくり）
達成目標	復興に向けた課題等を学習し，積極的にまちづくりに携わろうとする意欲をもたせる。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	地域に住む４人の身近な方々の講演を聞き，津災が今後の町づくりに及ぼした課題を知る。合わせて，復興に関する考え方も聞き，復興に関する自分の考え方を整理する。自分の考えを作文にまとめ，グループごとに話し合う。グループごとに復興に向けた提言をまとめ，模造紙に記述する。これを文化祭で発表した。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	講師を４人お願いした。 ・ 生徒たちの先輩である大学生 ・ マグロ船の元漁労長であり，地域の区長や仮設住宅の代表 ・ 兵庫県県土整備部まちづくり局都市政策課課長補佐(役場建設課に支援で在籍されていた方) ・ すばらしい歌津をつくる協議会 会長
参加人数	歌津中学校生徒１４１名
経費の総額･内訳概要	２万円（講師資料代等として 5000 円×４名）
成果と課題	【成果】 生徒が，津災からの復興について意識するようになり，自分のすべきことを考えるようになった。 【課題】 今後のまちづくりや，生徒個々の進路などと関連づけていく必要がある。
成果物	発表用模造紙１３枚

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。
※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)
※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：　４　】※3

タイトル	生徒の心のケアの実施
実施月日（曜日）	津災後継続して実施してきた。
実施場所	歌津中学校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏　　名：小山 美和 所属・役職等：教育相談部 部長（養護教諭）
所要時間または「コマ数×単位時間」	月１回程度「こころとからだのチェックカード」を帰りの会等で実施。面談は各担任や養護教諭等が随時実施してきた。
プログラムのカテゴリ、形式※4	１７ その他（津災後の生徒の心のケア）
活動目的※5	１０ その他（生徒の心のケア）
達成目標	生徒が津災で被った精神的な影響の把握に努め，生徒の心のケアを行い，生徒の健全な成長を支援する。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	月に１回程度の割合で，「こころとからだのチェックカード」を実施し，これをコンピュータによって解析するなどして，生徒の変化を把握し，教育相談が必要な生徒を浮かび上がらせる。また，教職員間の情報交換を密にし，心配な兆候が見られる生徒についても，教育相談を実施し，心のケアを実施している。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・　「こころとからだのチェックシート」 ・ Microsoft Excel VBA による経時変化チェックプログラム ・ Microsoft Excel VBA によるグラフ化プログラム
参加人数	歌津中教職員全員，ケア対象（歌津中学校生徒１４１名）
経費の総額・内訳概要	経費無し
成果と課題	【成果】 生徒の心のケアについて，指導体制を整備し取り組むことができている。 【課題】 今後の相談件数の増加を見越して，教育相談体制の強化を行う必要がある。
成果物	特になし

※3　本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。
※4　別紙「記入上の留意点」の3．項目から選択し、記入してください。（複数選択可）
※5　別紙「記入上の留意点」の4．項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：　５　】※3

タイトル	津災の記録文集の制作
実施月日（曜日）	年間を通して随時
実施場所	主に歌津中学校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏　　名：髙橋 奈穂美 所属・役職等：津災記録部 部長
所要時間または「コマ数×単位時間」	行事等の機会をとらえて写真や作文などを残してきた。帰りの会等で随時記録
プログラムのカテゴリ、形式※4	１７ その他（災害時の学校の対応の記録，今後の災害の参考）
活動目的※5	９ 災害対応能力の育成　　１０ その他（津災時の歌津中の記録）
達成目標	津災の年の歌津中学校の教育活動の記録を残し，検証を行うなどし，今後の災害時の教育活動の参考としてもらう。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	生徒の作文等については，行事の際の感想などとして書かせるようにした。生徒の精神的負担を考えて，無理に津災の記録を書かせるようなことはしなかった。教職員や保護者やボランティアについても文章を累積した。これらに加えて，写真等も合わせて「津災の記録」として文集に残す。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・ デジタルカメラ ・ 河北新報の記事データベース
参加人数	歌津中学校生徒１４１名他，教職員，保護者等
経費の総額・内訳概要	80,967 円（印刷製本代，河北新報データベース登録料）
成果と課題	【成果】 「津災の年の歌津中学校の記録」を残す事が出来た。 【課題】 今後，記録を活用していただけるように，１年間の総括等を行っていく必要がある。
成果物	文集「津災の年の歌津中学校の記録」

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。
※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）
※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：　６　】※3

タイトル	教職員の研修会の実施
実施月日（曜日）	救急救命法講習会 8 月 19 日(金)，講演会 12 月 20 日(火)
実施場所	歌津中学校 多目的室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏　　名：佐藤 公治 所属・役職等：研究主任
所要時間または「コマ数×単位時間」	各研修会とも所要時間は２時間程度
プログラムのカテゴリ、形式※4	２ 講習会・学習会ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ　　３ 講演会・シンポジウム
活動目的※5	６ 防災に関する知識を深める　　７ 技術を身に付ける
達成目標	教職員対象の研修会を実施することによって，生徒の命を守るなど，教職員の対応能力を高める。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	救急救命法の講習会は，消防署の協力のもとに実施した。また，他の地域の津災時の教育活動の参考として，岩手県の大槌町の教育委員会の取組について参考にした。講演会には，大槌町の伊藤教育長先生に歌津中学校までお出でいただいて，御講演いただいた。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	救急救命法の講習会には，消防署の方に，ＡＥＤトレーナー等は準備していただいた。 講演会には，プロジェクターやスクリーン等を準備した。
参加人数	歌津中教職員２０名
経費の総額･内訳概要	２万円（大槌町の教育長への講師資料代及び交通費等として）
成果と課題	【成果】 教職員の研修会を実施することによって，実技や知識を高めることが出来ると共に，教職員の意識を高めることが出来た。 【課題】 研修の内容を実際の教育活動に生かして行くこと。
成果物	特になし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。
※4 別紙「記入上の留意点」の3．項目から選択し、記入してください。（複数選択可）
※5 別紙「記入上の留意点」の4．項目から1つ選択し、記入してください。

４．苦労した点・工夫した点

プランの立案と調整で苦労した点工夫した点	昨年２月に発表したプランにおいて，本校のプランの目玉は，地域の防災意識を高めることを目的としたものであった。そのために，津波の避難所である歌津中学校において，生徒全員の避難所宿泊体験を実施することを計画していた。またその際には，これまであまり津波の避難訓練に参加して来なかった地域の方々にも参加していただき，地域の防災意識を高めることにチャレンジしようと考えていた。 しかし，その発表を行ったわずか１３日後の３月１１日に東日本大震災が起きた。登校していた生徒たちは，全員避難所となった歌津中学校体育館に泊まった。避難所体験を計画していたのに，体験の前に本番が来てしまったのである。一事が万事，計画していたことが直接実践になってしまった。避難，避難所でのおにぎりなどの食料の配布，水の確保などに，生徒たちは積極的に役割を担って活動した。 このような状態を経過した後で，生徒たちに津波を仮想した訓練等を実施することは，必要の無いものに感じられた。津波が来てしまったという事実は何よりも重かった。プラン通りに訓練することがむなしく，わざとらしく感じられた。このような状態では，プランの続行は不可能と思われた。 津災から，学校の再開まで２ヶ月かかった。学校が再開しても，余震は続き，がれきの町となった中を生徒たちが通学して来る状況を見たとき，まず，生徒の安全を確保しなければならないと気付いた。安全確保の避難シミュレーションを生徒個々に行う授業を実施した。生徒の保護者からも安全への配慮を求める声が多く聞かれた。避難訓練等の防災教育は，津波直後であっても必要だと気付かされた。津波直後だからこそ，それを求める声は強かった。 また，肉親を失った生徒たち，自宅を流失した生徒たちの喪失感をケアする必要を強く感じた。さらに，避難所暮らしを続ける生徒たちの食を確保し，衣服を提供し，目標を失わないように学習や部活動などの活動にも配慮する必要があった。これらは，教育委員会や町当局が行うものではなかった。行政にはもっと別にやらなければならないものがあった。また保護者が個々に行うものでもなかった。そのため，生徒の実態を知る教職員が行わなければならないものであり，積極的に，自発的に行動し，声を上げて生徒を支援していかなければならないものであると教職員全員で自覚した。 このような，状況の中で，当初のプランは水泡に帰したが，必然的に教職員が取り組まねばならないチャレンジプランが明確になってきた。こうしたことから，本校では教職員を，４つの部会に分けてそれぞれの専門的な立場から，津災対応に取り組んだ。４つの部会とは，「津災記録部」「教育相談部」「生徒支援部」「地域貢献部」の４つである。教職員がそれぞれの部会に参加して組織的に対応するようにした。 「津災記録部」は，津災の年の歌津中学校の記録を残すことを役割とした。これは，津災を受けた地域に立地する中学校に勤める教職員として，歴史的使命を果たすべく設定した。 「教育相談部」は，教育相談的手法を使って生徒の心のケアを行うことを役割とした。 「生徒支援部」は，生徒の学習や生活の支援を行うことを役割とした。総合的な学習の時間の授業の立案等も担当した。 「地域貢献部」は，中学生に地域一員としての認識を新たにさせ，地域の中で活躍させることによって，自己有用感を味わわせ，自らの生活の着実な立て直しや進路への意欲をもたせたいと考えて設定した。 これらの４つの部会の活動は教職員を主体として組織されたものであるが，全て生徒たちへの対応と今後のまちづくり，そして，災害に強いまちづくりを主眼に置いて編成したものである。 プランは，半年，１年前から計画したものではなく，実践をしながら，連絡調整を行いつつ，計画を練っていかなければならないものも多かった。授業時間数確保の関係で，授業内で行うことが出来ず放課後や休日の活動となったものも多くあった。総合的な学習の時間の時数の減少なども，活動の制約となった部分があった。

準備活動で苦労した点工夫した点	先にも書いたように，計画を行いながら，準備し，実践するといった状況の活動が多かった。物資の不足や，学校が避難所となっていることなどから，計画しようとしても予測できない部分も多くあった。またボランティアさんの協力など，思いも寄らない有り難い申し出を受けることもあり，予想もしない好条件で実践できることになった活動もあった。夏祭りに寄せられた全生徒分の浴衣や法被の提供などはこれに当たる。 苦労した点として挙げられるのは，総合的な学習の時間で実施した「未来の歌津を考えよう」の授業で，地元の方々の中から講師を４人捜すことであった。実施に当たっては，生徒たちに，復興やまちづくりについて話をしてもらうのに，生活環境が全くかけ離れた，大学の先生のような人に来ていただいてもあまり意味がないと考えた。そこで，このまちに暮らしている人で，なおかつ，このまちの事情をよく知っている人が，講師として適任であると考えた。しかし，講演などしたことがない人しかおらず，人選に苦慮したが，授業のねらい等を根気強く話して理解してもらうことによって，何とか４人の講師を確保することが出来た。 また，教職員の研修会の講師についても同様であった。当町と同様の状況があり，同様の状況下で様々な実践を行っている方に来て頂きたいと考えた。そこで，町の規模，被害の状況等が似通っている岩手県の大槌町の教育長に講演を依頼した。 また，様々な活動において，障害となったのは，生徒たちの通学の安全を確保するために，１学期途中から導入された通学バスによる制約である。これによって，下校時間が決められたため，時間がかかる準備には配慮を要した。
実践に当たって苦労した点工夫した点	この度の津災で，防災教育の実践の機会を得たと考える人もいるが，このような考え方は，避難の実践や軽作業にとどめるべきであると考えている。津災の発生直後，当避難所で 100 人を超える規模で，まとまって組織だって動けるのは中学生だけであった。毛布の配布や教室のカーテンの引きちぎり，水の確保，おにぎりの配布など，津災直後は中学生が行った。 このような中学生の実態は，これまでの防災教育の成果であると言える。しかし，当日は雪が降る寒さの中であった。生徒が配るおにぎりや毛布等を我先に受け取る大人たち。生徒たちは物資を配るという役割を担当したが故に，自分の分の確保も出来ていない状況の中で，後回しにされてしまうような状況も見られた。 中学生はまだ子どもである。大人たちには，子どもたちを守る立場にいる自覚や子どもたちへの配慮が必要だったと考える。このようなことが無いように，やはり，地域の大人が，率先して動けるような災害に強いまちになることが必要であると感じた。 中学生に対して行った防災教育は，避難方法や救急的な内容のもの以外は，すぐに成果として表れることを期待するのではなく，生徒たちが社会人となってから自主的に動けるようになることをねらいとして行うべきであると考える。そのようなことを考えて，歌津中少年防災クラブの活動を工夫してきた。 歌津中少年防災クラブは，当初の計画では５月には発足式を終えて様々な活動を行って行く予定であったが，津災の影響で大きくずれ込んだ。しかし一方で，被災地となったことで，少年防災クラブの存在意義も増したとも言える。具体的には，仮設住宅のひとり暮らしの方へのはたらきかけや，冬季に心配される火災の予防などである。中学校に隣接する仮設住宅に対し，学校だよりを生徒が配りに行ったり，防火訪問に行って，火災予防を１軒１軒呼び掛けたり，火災予防ポスターを生徒全員で描いたりなどの活動を行っている。 このような活動を，地域への貢献として行う中で，生徒たちは地域の方から感謝の言葉を掛けられたりしている。生徒たちは，自分が人の役に立っていることをとてもうれしく感じている様子が見られる。このような経験が積極的に地域のために役に立とうとする次の活動につながっていると感じる。このような活動の積み重ねが，将来，地域の中で生き生きと活躍する大人を作り出すものと考える。

５．他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・同窓会組織	・南三陸町立伊里前小学校 ・南三陸町立名足小学校 ・気仙沼市立階上中学校 ・南三陸町教育委員会 ・歌津中学校同窓会	隣接する小学校２校には行事等の資材の借用等でお世話になった。 階上中は，少年消防クラブの先進校で，物品借用等の協力をいただいた。 教育委員会は教育活動全般。同窓会には，防火訪問等の段取りや，観衆の整理等の協力。
保護者・ＰＴＡの組織	・歌津中学校ＰＴＡ ・花火師の資格を持った保護者	夏祭りの際，生徒の夜間送迎などの支援。 また，花火師の資格を持っている保護者に，花火の提供と打ち上げを支援していただいた。
地域組織	・すばらしい歌津をつくる協議会 ・歌津中学校仮設住宅自治会 ・伊里前小学校仮設住宅自治会 ・西光寺護持会	すばらしい歌津をつくる協議会には，活動のアドバイスや，金銭的支援をいただいた。 仮設自治会や護持会には，防火訪問に参加した生徒へのもち等の炊出し，その他。
国・地方公共団体・公共施設	・南三陸消防署 ・南三陸消防署歌津出張所 ・南三陸町役場危機管理課 ・南三陸町保健福祉課 ・岩手県大槌町教育委員会	消防署には，少年防災クラブにかかわる発足立案その他，生徒の指導を担当していただいた。 役場は防災クラブの予算関係の支援等。 大槌町教委は，実践事例の提供等。教育長には，本校で講演していただいた。
企業・産業関連の組合等	・河北新報社 ・共同通信社をはじめ，新聞，テレビ等マスコミ各社	河北には，津災記録となる記事の提供に協力していただいた。 また，マスコミ各社には，報道していただき，モチベーションを高めていただいた。
ボランティア団体・ＮＰＯ法人・ＮＧＯ等	・ワールドビジョンジャパン ・ビジョンネット ・チームカイト ・その他，多数のボランティア，ＮＰＯ法人の方々	物資，義援金，作業協力等の支援。 また，夏祭りの炊出しや演し物等を提供してもらい，祭りを盛り上げていただいた。
職業、職能団体・学術組織、学会等	特になし	特になし

６．成果と課題（実践したプラン全般について）

成果として得たこと	一番大きな成果は，地域のために何かしたいと話す生徒が数多く見られるようになったことである。津災当初は，自らの身に何が起こったかも良く理解できずにいた生徒たちであったが，自分たちの生活を立て直すには，自分たちも何か役割を果たさなければならないと考えるようになった。そのように考えるようになったのは，地域の方々を励ますそうと生徒たちが企画した「歌中夏祭り」で，多くの生徒が感動を味わったことがきっかけとなっている。「歌中夏祭り」が行われたころから，多くの生徒が復興に前向きな発言をするようになった。 また，少年防災クラブの活動によって，災害に対する意識が高まったことも，生徒たちに積極的な行動を起こさせている。自ら率先して，規律訓練やポンプ操法の訓練に参加したり，休日の仮設住宅への防火訪問に参加したりする生徒もあった。 このような活動の延長上に，このまちの地域力の向上や将来の防災力の向上があるのだと考える。さらに，学校で津災時対応として行ってきた生徒の心のケアや生徒への様々な支援などの教育活動を記録に残す事によって，今後，災害時における学校運営の参考にしてもらいたいと考えている。
全体の反省・感想・課題	津災後，本校の学校再開は５月１０日にずれ込んだ。これによって，津災前に立てた本校のプランの日程と内容は大幅な見直しが必要となった。総合的な学習の時間の時数も前年度より大幅に減った。このような変化に対応するには，長期休業等を活用した活動を，計画的に行う必要がある。 また，防災教育と教科等との関連を整理し，これまで以上に教科等の中で，防災教育を行っていく方策を模索しなければならないとも考える。 今回の津災で，図らずも防災教育の実践の機会を得たとの考え方もあるが，生徒の生命や身体的かつ精神的な負担を考えると，災害時の活動は率先避難の実践や，物資の運搬や配布程度にとどめておくべきと痛感している。児童・生徒の場合，防災教育の成果はすぐに出ると考えるのではなく，生徒が大人になった時点において，地域の防災に積極的に取り組み，自らの役割を果たそうとするなどの，防災的実践力を育てることに重点を置くべきと考える。
今後の継続予定	生徒１人１人がこの地域の防災の担い手となり，地域の防災力を高めるために，消防署，町役場，消防団，日赤奉仕団，学区内の小学校，ＰＴＡ，同窓会などの代表者をメンバーとする「防災教育協力者会議（仮称）」を設立し整備していきたいと考えている。この協力者会議において，本校の防災教育の年間指導計画の作成に関する指導・助言をいただくとともに，地域の方々に率先して指導者となっていただくようにしていく。このような形にすることによって，歌津中学校の防災教育が，教職員の転任や教育課程の変更などの影響を受けずに，長く継続していくことが出来るものと考える。 また，少年防災クラブ内で資格制度を整備していきたいとも考えている。救急救命法や消火法，避難所で役立つ炊出し訓練などの防災的スキルを身に付けるための研修を数多く企画・実施し，研修を受講した生徒に，資格証を発行するなどして，生徒の学習意欲を喚起していきたいと考えている。

7．自由記述欄　※6

※6　自由記述欄は、防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等を盛り込んでください。また、前頁までの記述に不足した事項、参考資料、写真等を自由にご記入ください。なお、3ページ以内厳守でお願いします。

【実践プログラム番号：　1　】「歌中夏祭り」の様子

祭りのにぎわい(当日は雨天だった。)

ペットボトル灯篭の準備風景

鎮魂の盆踊り(雨なので体育館内で実施)

男子生徒のソーラン節

ペットボトル灯篭の点灯

ペットボトル灯篭「命」

（自由記述：　1／3）

【実践プログラム番号：　２　】「歌津中少年防災クラブ」の活動の様子

歌津中少年防災クラブ発足式の様子

応用ポンプ操法の訓練の様子

仮設住宅への防火訪問の様子

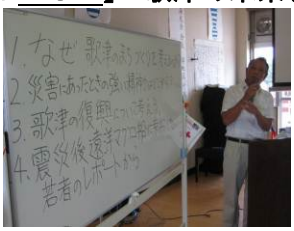
仮設住宅への防火チラシの配布風景

西光寺の餅つき会での通常点検の様子

西光寺の餅つき会でのポンプ操法の実演

（自由記述：２／３）

【実践プログラム番号：　３　】「歌津の未来を考えよう」の授業の様子

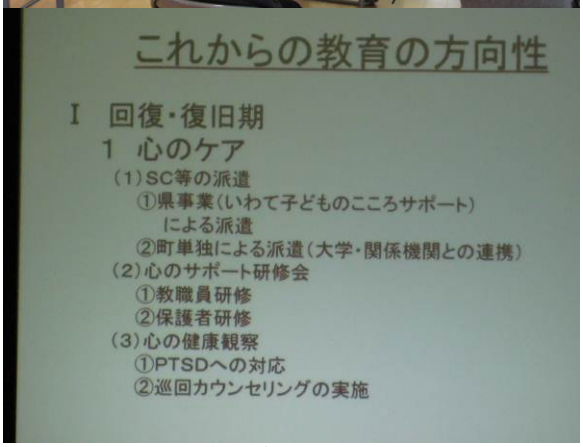


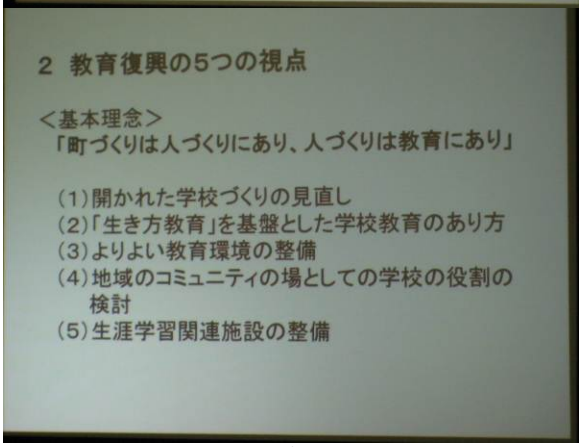
４人の講師。（左から，大学生，元漁師の区長，兵庫県庁の方，地域新聞を発行している方）

班毎の話し合いの様子

模造紙にまとめた１３班のまとめ

【実践プログラム番号：　６　】教職員の研修会の様子





岩手県大槌町伊藤教育長先生による講演「被災地に求められている教育活動」

（自由記述：３／３）